

カトリック六甲教会 教会報

2016

5

No.533

御復活おめでとうございます。



復活徹夜祭に洗礼を受けられた12名の方々に、心からお祝い申し上げます。これから喜びの内に教会生活を送られ、共同体の皆様とお互いに支えあって歩んで行けたらと思っております。

さて、今年の復活徹夜祭は、肌寒い中にも桜の花が幾つか開き、ようやく春の訪れを告げているようでした。その桜の木の下で新しい火が熾され、会衆が一堂に集い『復活のろうそく』に火がともされました。洗礼の儀では、志願者の紹介の後、お二人の女性によって丁寧で暖かく心に響く連願が歌われました。一年のうちで、最も盛大にキリストの過ぎ越しを記念する、この夜の典礼が終わりに近づくと、侍者の女の子が香を持って祭壇の前に立ち会衆に香が振られました。その時、私たち一同が清められ、私たちの捧げる祈りが香のかおりと共に、神様の下に届けられているという思いがいたしました。

聖金曜日（受難の祭儀）の中でも、十字架の顕示で、ろうそくを持った二人の侍者と共に、紫の布で覆った十字架が侍者の男の子によって運ばれましたが、真剣な表情で十字架を運ぶ様子に、厳粛な中にも新鮮な感動を覚えました。

ふり返ってみますと、普段のミサでも聖週間のミサの中でも、侍者の子供たちがとても頑張っていて教会の未来には希望の光がともされていると思います。そして、侍者の子供たちを指導し陰で支えて下さる方々や、復活祭という盛大な典礼を準備して下さるすべての方々に感謝いたします。（堤）



ナルドの花たより

エクアドルと日本での地震被害者のために祈ります。神と私たち兄弟姉妹全員が、彼らに助けと支援を与えられますように。（2016.4.18）



神の子が外に出かけ、例外なくあらゆる人と出会おうとした行動を、教会は模範とすべきです。（2016.4.13）

私たちが、人生を変える福音の真理、美、力を輝かせる人間になるよう、主は求めています。（2016.4.5）

もし私たちが心を開き、私たちに向けられた神のいつくしみを受け入れるなら、今度は人をゆるすことができるようになります。（2016.4.1）

カトリック中央協議会 教皇フランシスコのツイート（邦訳）より

2016 年度第 1 回地区役員会(2016 年 4 月 10 日)議事録

アルフレド主任司祭、堤 評議会議長、各地区役員

- 1 2016 年度地区役員メンバー自己紹介
- 2 地区会の役割と運営の視点
- 3 2016 年度教会行事日程と行事担当企画チーム
- 4 ご復活のお祝いと受洗者のお祝い会(3月27日)
- 5 2016 年度教会行事日程表と地区連絡網の配布



アルフレド主任司祭より

80 歳以上の信徒の方々にアンケートを行った。
個々の対応が必要な場合には、地区役員の協力をお願いしたい。

次回地区役員会 5 月 29 日(日) 12:00~

.....

行事報告

復活徹夜祭洗礼式(3月26日)

~受洗者のみなさまから~

2 年前に六甲に引っ越してきました。この美しい街並みと教会にとっても魅かれています。洗礼を受けるにあたって、いろんなこと教えられました。日本のカトリック信者の中では「天国泥棒」といった言葉があるそうです。死の直前に洗礼を受ければ、この人は生前何をしても死後天国に行けるそうです。恥ずかしながら私は、「天国泥棒」とまではいきませんが、かなりそれに近いと思っています。受洗直後の敬虔な気持ちを持続していくのは大変なことと存じますが、皆様の励まし、なにとぞよろしく願いいたします。(岩田)

私の両親はクリスチャン(プロテスタント)で、小さい頃から祈りの中で育ってきました。そんな中で、良き出会いがあって今回六甲教会で受洗することができ、本当に神の導きを感じています。教会にもとても温かく迎えてくださり、これからの信仰の歩みの心強い支えです。また、受洗を通して多くの方に声をかけていただきました。本当に感謝しています。その恵みの中で私自身も教会の枝の一つとして強い信仰をもって歩んでいけたらと思っています。(大淵)

~代父母のみなさまから~

復活徹夜祭に新しい教会家族をお迎えでき、大きな喜びに包まれています。同時に、自身の受洗・受堅の恵みを思い起こし、秘跡がいかに憐みに満ちたものか噛みしめました。今回、代母として参加しましたが、会衆の皆さまと気持ちも使命も同じだと心得ています。新しい命のスタートラインに立たれた受洗者の皆さまが、教会の豊かな宝のなかで喜びを深めていかれますよう、ともに祈り、支え合って歩んでまいりたいと思います。(古泉)

3 月 26 日、復活祭前夜のミサのなかで合計 12 名の洗礼式があり、高山神父の指導により小中高の同級生とそのお姉さまがめでたく洗礼と堅信の秘跡を受け、わたしたち夫婦がご両人の代父、代母をつとめました。

お二人はそのミサで初めてご聖体を拝領し、翌日の祝賀会では記念品と洗礼証明書の授与がありました。彼は早速、教会のメンテ担当の施設管理部に加わり活動すると言ってくれています。ほんとうに嬉しいことです。(鈴木)

ユスト高山右近列福祈念巡礼（4月13日） ～生誕の地高山から隠れキリシタンの里「千堤寺」～

4月13日（水）ユスト高山右近の巡礼の旅に参加しました。カトリック芦屋教会の川邨神父様始め、芦屋教会、明石教会の人たち総勢13名がマイクロバス（今回は大型バスでは行けない所も訪問するので）1台に同乗し、豊能町高山の「右近の郷」に向かいました。

到着してまず、「高山マリアの墓」を訪れましたが、木々の間にひっそりと4基の墓碑があり、3基は寄り添うように、1基だけぼつんと少し離れた所がありました。これらの墓碑は隠れキリシタンの2組の夫婦の墓という説と右近の母親の墓とも伝えられています。その後、「右近生誕の碑」、高山コミュニティセンターのグラウンドにある「右近夫婦像」などを訪問しました。春ののどかな日差しの中で小鳥たちのさえずりを聴きながら静かな里山高山に居ると、400年前の高山右近の姿が見えてくるようでした。

昼食後は、茨木市の隠れキリシタンの里千堤寺（せんだいじ）の散策に出かけました。最初に「茨木市立キリシタン遺物資料館」へ。ここでは東家の東マリアさんが我々の為に貴重な遺物品の数々について説明してくださり、参加の皆さんも熱心に耳を傾けられていました。私は資料館を出て「マリア黙想の道」を歩きながら、隠れキリシタンの生活を思い浮かべていました。クルス山を望みながら下り、玄関前に右近像のある「愛と光の家」を訪れました。ここで参加者は川邨神父様司式のミサに与りましたが、和風の聖堂は右近を偲ぶのにふさわしく、いい御ミサでした。最後に千堤寺天主堂跡地の「聖マリア像」を訪問し、今回の巡礼の旅は無事終わりました。心配した雨もミサ中に降っただけで、本当に心洗われる充実した1日でした。

キリシタン大名高山右近は、知れば知るほど彼の信仰の深さ、知識人、文化人としての偉大さに心打たれます。六甲教会でも典礼部中心に、これから3年間に亘り「右近の足跡を辿る巡礼の旅」を企画（生誕の地高山から最終の地マニラまで）していますので、その節は多くの方のご参加をお待ちしております。
(右近クラブ会員 蛭田)



右近生誕の碑



右近夫婦像



愛と光の家での御ミサ

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

「受洗者・転入者」説明会（4月17日）

4月17日（日）ミサの後、最近洗礼を受けられた人や他の教会から転入されてきた人たち対象に「教会の組織、各部門の活動内容、地区会そして、教会会計の仕組み」などについての説明会が行われました。

この日の参加者は20名弱で、小教区評議会の担当役員、評議員がそれぞれの担当部門について説明を行い、その後、参加者一人ひとりにも自己紹介をしていただき説明会は終了しました。

六甲教会は大阪大司教区の中でも1、2の大世帯です。新しく仲間となられた方が孤立しないよう、このような会を通じて1日も早く共同体の一員として溶け込んでいただくことは有意義なことだと思います。
(広報部 蛭田)



《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

小教区評議会

5月8日(日) 12:00 評議会

地区会

5月29日(日) 12:00 役員会

三日月会

5月16日(月) 14:00 ミサと懇親会

典礼部

5月15日(日) 13:00 典礼奉仕者の集い

壮年会

5月22日(日) 懇親会

宣教部

5月22日(日) 12:00 部会

5月28日(土) 春の黙想会

教会学校

5月29日(日) 遠足

広報部

5月29日(日) 教会報6月号発行

《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

5月14日(土) 10時

炊き出し(イグナチオホールお台所)

小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話し相手や、配食だけでもOKです。

5月15日(日)10時ミサ後

ふれあい広場(イグナチオホール)

5月19日(木)14時

ベタニアの集い

5月27日(金)

ともしび会ケーキ作り(イグナチオホールお台所)

..... ボランティアグループの紹介 その11.....

アフリカ支援の会

毎年12月半ばになりますと、イグナチオホールの隅に「アフリカへのカレンダー」と書いたボックスを置かせて頂いていました「アフリカ支援の会」の御紹介をさせていただきます。

最初はマダガスカルで働く、マリアの宣教者フランシスコ会のシスター遠藤を同級生の上林さん(宝塚教会所属)が援助され、「アフリカ支援の会」を立ち上げて33年。残念なことにシスター遠藤は2006年にマダガスカルで帰天されましたが、今は、マダガスカルのシスター平間(78歳)・シスター牧野(83歳)、ブルキナファソのシスター黒田、コンゴ民主共和国のシスター中村へそれぞれ支援しています。

シスター遠藤、シスター牧野は、助産婦として、医療教育を受けていない女性や家族を対象に出産から学校教育にまでかかわっておられます。

支援は、食品(砂糖、お茶、ミルク、紅茶)、衣類(Tシャツ、ベビー服、おしめ、タオル)、日用品(石鹸、文房具、台所用品)、衛生材料(包帯、体温計、脱脂綿)などを現地に送っています。また、送料を捻出するために、ご寄付頂いて、現地に送らないものでバザーを開催しています。そして、特に多くの六甲教会の方々にご協力頂いていますカレンダーですが、日本の印刷・紙・図版が良いので、カレンダーとして、額に入れて絵画として、プレゼントとして活躍しています。

私も上林さんにささやかな協力を始めて23年余りたちました。教会の方々のご協力、善意のご厚意なしには続けることはできませんでした。本当にありがとうございました。今回、このように

ご報告と御礼の場を作って頂き感謝申し上げます。

ご高齢にもかかわらず、アフリカの女性・子供へ愛の奉仕をしていらっしゃるシスター方、最後はアフリカに骨を埋めるつもりで働いていらっしゃるシスター方、そしてご協力頂いています教会の方々の上に神の恵みがありますように…。 祈りと感謝のうちに (藤井)

ありがとう ひらめの家

『ひらめの家』が、2016年3月をもちまして、ミサ後に出店してきたふれあい広場から姿を消すことになってしまいました。とても寂しくなります。ひらめの家のスタッフや、メンバーの間から以下のお別れの言葉をいただきました。 社会活動部

「気候や風向きで、教会の鐘の音は人や車が行き交う街の中を抜けて、時折ひらめの家まで聞こえて来る。ふと気持ちが穏やかになります。

本年3月をもちまして、当方の都合でふれあい広場での出店を終わりにさせていただくことになりました。10数年、めぐる四季を感じながら、教会へ通いました。神父様、信者様はじめ多くの優しさに触れて、心温まる時を過ごさせていただきました。

皆様に感謝申し上げます。」 (ひらめの家 北川)

「もうちょっとやりたかった……………」 (寸田)

「ふれあい広場への参加がなくなるのは残念です。今までありがとうございました。」

(赤松)

「ふれあい広場への参加がなくなるのは残念ですけど、今まで呼んでいただき、ありがとうございます。」 (中村)

「出来たら、もうしばらく続けたかった…。また、お伺いします。」 (坂根)

参加募集集中！

納涼の夕べイベント参加を募集しています。

日時：8月20日(土)

場所：教会駐車場(雨天はイグナチオホール)

- ・参加項目は問いません。(歌、踊り、ダンスなど)
- ・1ステージ15分位でお願いします。
- ・応募多数の場合は、お断りすることもあります。
- ・応募の受付は、6月26日(日)10時ミサ終了後まで。

<問い合わせ先>

納涼の夕べ実行委員会(大倉、林、橘)または、所属している地区会長まで。

ご応募をお待ちしています。

「信仰と殉教の地“平戸・生月島”巡礼」に
申し込みをされた皆様へ

平戸・生月島巡礼（5月19日～21日）は、最低催行人数を超えましたので予定通り遂行させていただきます。

巡礼のスケジュールやお知らせ等は、各参加者に、随時郵送させていただきます。

尚、現地は震災による目立った被害もなく、平常通りの生活や営業を続けておられますのでご安心ください。

巡礼お世話係一同



みんなの広場

五月

三好

五月、「聖母聖月」。地球上の緯度の高い地方ではこの頃野の花が一斉に開く。暗い季節が終わって人々は野に出て明るい季節を楽しんだ。やがて信仰を得た人々は野に集まって聖母を讃えた。

嘗てこの教会でも5月の一夕、庭に設えた聖母の御像を囲み、信徒が集まって祈り歌う集いがあった。ブラウン主任司祭が提唱された殆ど信徒、男女青年会員が中心になって準備したささやかな集いであった。聖金曜日や6月には「償いの聖時間」、8月には男女青年会のためにはそれぞれ教会の外に場所を得て、壮年会と婦人会のためにはそれぞれ教会内で、「霊操」に基づく三日間の黙想会が催されていた。

こうした習慣が次第になくなっていくのではないか。周囲の社会の変化が云々される。しかし、それよりも変化したのは信徒の霊性への意識ではないか。

朝の祈り、晩の祈り、お告げの祈り（復活節はアレルヤの祈り）を毎日欠かさない信徒は何ほどか。いづまいをただして祈祷書を開く、できればよい。しかし、物々しいことはできなくても方法はある。朝は、主の祈り、アベ・マリアの祈り、栄唱、使徒信経、「全能の神、父と子と聖霊がわたしたちを祝福し、守ってくださいますように。アーメン」。夜は一日のことを顧みて、「悔い改めの祈り」。主の祈り、アベ・マリアの祈り、栄唱、使徒信経それに「イエス、マリア、ヨセフ、心も体もみ手にゆだねます」「イエス、マリア、ヨセフ、臨終の苦しみの時にわたしを助けてください」「イエス、マリア、ヨセフ、永遠の憩いを迎える恵をお与えください」と付け加えれば。これくらいなら暗記できるだろう。朝、身繕いをしながら、通勤の途上、家の掃除をしながらでもできる。夜は不謹慎かも知れないが風呂の湯につかりながらでも、床に入ってからでも。或いは病院のベッドで身動きできなくても。

「神は遍在し、すべての被造物に内在する」。「二人また、三人がわたしの名によって集まっているところには、わたしもその中にいる」（マタイ18：20）。

組織化され統制されたものばかりではない自発的な信心の業、集い。それは教会霊性のバロメーターといってもよいのではないか。（祈りの定型文は「日々の祈り」から）

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．

ひとつの提案 一教会図書室のこと一

紙谷

久しぶりに教会の図書室を訪れた。しかし以前見られたような活気が感じられない。キリスト教関係の本の出版は以前にも増して盛んなのに、新刊書コーナーにはほとんど新しい本が入っていない

い。検索用に作られていた書名と著者名の冊子式ファイルも2010年でストップしている。子どものための絵本架に至っては廊下に放り出されたままである。「止まった時計」のようである。

東京の大きな教会には必ずと言っていいほど立派な図書室があった。数年前東京で暮らしていた頃、四谷の聖イグナチオ教会（当時以前六甲教会におられた桜井神父と今の主任司祭であるアルフレド神父がおられた）によく通った。そこには図書室と図書館（聖三木図書館）があり、書店も併設されていたからである。日曜日には常設の古書店も開かれていた。つまり教会の宣教活動の一環として図書と図書室（図書館）の役割が認知されていたのだろう。

小さな図書室とはいえそれを管理・運営するには多くの労力を必要とする。私は公共図書館で30年近く勤めていた経験から分かるのだが、まず図書を選ぶことから始まり、整理し配架する作業を経て、閲覧・貸出しするまで外からは見えない多くの煩雑な仕事がある。教会の図書室の活動が以前のような輝きを取り戻せないのも、ひとつにはこのことが障害となっているからかも知れない。

では「止まった時計」を再び動かすために、信者としてどのようなことをすれば良いのだろうか。図書室の活動を宣教の一環として捉えるなら、宣教部の仕事であり、図書および図書室を施設として考えるなら施設管理部の仕事である。もちろん図書部として独立した組織を考えても良いのだが、とりあえず図書室の活動を、社会活動部のボランティア活動のひとつとして考えてはどうだろうか。グループとして図書室に関心のある者が集まり知恵を絞れば、以前にも増してより良い図書室ができるように思う。

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

わたしたちは同じ空の下にいる

反橋

ユスト高山右近が、列福されることが決まりました。「努力は必ず報われる」これはAKB48の初代総監督高橋みなみさんの言葉です。列福の祈願が実って良かったと思います。高山右近は、降りる水のような人だったといわれています。ユストとは、正義という意味だそうです。

「一人では大変な時に周囲の人が手を差し伸べて助けてあげたり、人がふれあい、対話することや行動で示すことで、多くのことを外に発信したり、ごく普通のことの積み重ねから生まれる」とメキシコ合衆国一等書記官アレハンドロ・バサーニェスさんは日本人のありのままについておっしゃっています。

ありのままであるということは、高山右近の時代も、現代も、いつの時代も結構難しいことかもしれませぬ。

「人々が福音を待ちわびているときに、教会に閉じこもってはいけません。ドアを開くだけでは不十分です。そのドアから出かけ、人々を探し、人々と出会わなければなりません。」（フランシスコ教皇）

中世のスペインでは、キリスト教徒、ユダヤ教徒、イスラム教徒が共存して知的な討論が行われ、数学と科学が格段に進歩しました。アストロラーベ（大英博物館所蔵のものはヘブライ語で書かれている）は航海、天文、占星術、時計代わりに使われたもので、古代ギリシャで発明され、中世スペインで洗練されました。

悲しいことに、シリア等世界中で、戦禍が巻き起こっています。世界中で、といっても、日本も神戸も六甲教会も他人事とは言えません。きれいな空気が吸いたい子供にはきれいな空気を吸わせるべきです。原発・アスベスト・PM2.5・薬物中毒、すべてなくなれば良いと思います。王子動物園は、終日全面禁煙で、一時間に一回それを呼びかけるアナウンスが流れます。

ありのままの、美しい桜が今年も笑いました。

熊本地震・災害救援のための募金

熊本地震・災害救援のための募金箱を聖堂入り口に置いておきますので、ご支援のほどよろしくお願い致します。（5月8日まで）

集められた募金は、カトリック大阪大司教区の ENGO プロジェクトの災害対策委員会（仮称）に託します。

プロジェクトでは、今後必要になってくるところへ援助していただける予定です。

～社会活動部～

教会受付お休みのお知らせ

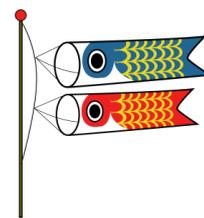
5月4日（水）みどりの日

5月5日（木）こどもの日

5月31日（火）聖母の訪問（祝）

聖母の訪問ミサ 7:00 10:30

ロザリオの祈り 10:00



教会報6月号の発行は、5月29日（日）です。
原稿は5月15日（日）までに教会受付へご提出
ください。FAX 及びメールでも受付いたします。

（広報部）

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会
〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21
電 話 078-851-2846
F A X 078-851-9023
発行責任者 アルフレド・セゴビア
編 集 広 報 部